

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

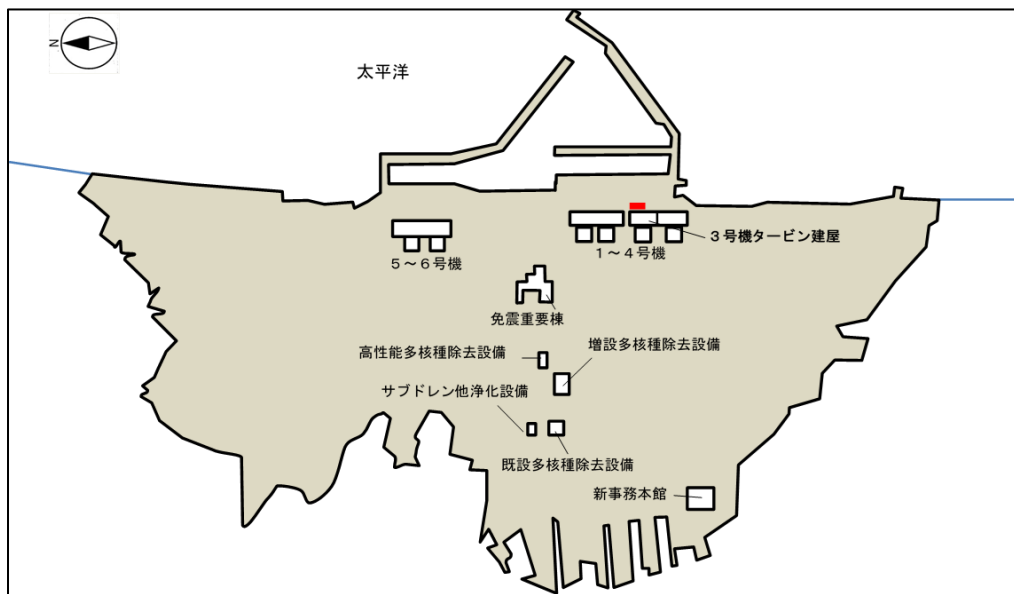
- 1 確認日  
令和4年9月20日（火）
- 2 確認箇所  
3号機タービン建屋外壁北東側
- 3 確認項目  
3号機タービン建屋外壁止水工事の状況
- 4 確認結果の概要

1～4号機建屋への雨水及び地下水の流入については、雨水の流入抑制対策として建屋周辺のフェーシングや屋根の補修等が進められており、地下水の流入抑制対策としては地下水バイパス、サブドレン及び陸側遮水壁が運用されている。東京電力では、建屋流入量のさらなる低減のため、最も適切な対策について幅広く総合的に検討するとともに、建屋周辺や屋根の高線量ガレキの撤去が進むなど施工環境の改善が図られてきていることから、施工可能な箇所において、局所的な止水対策に取り組むとしており、今後も1～4号機周辺のフェーシングにより雨水の流入抑制を進め、さらなる流入抑制として、残存する配管等の建屋貫通部や建屋間のギャップ（隙間）端部への止水対策を検討するとしている。

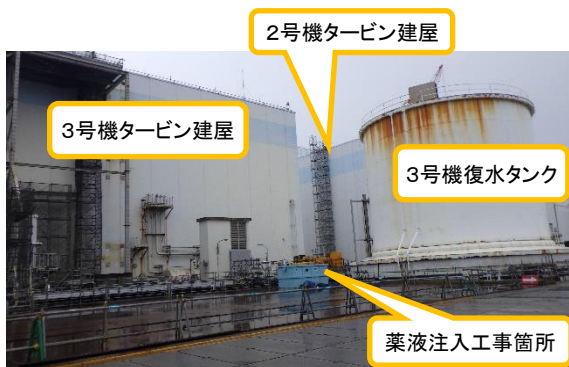
建屋への流入量が最も多い3号機では、深部（T.P. +2m以深）に残存が確認されている建屋貫通部（北東部2箇所、南東部1箇所、南西部2箇所）における止水方法を検討することとし、3号機タービン建屋北東部においては薬液注入による止水工事が計画されていることから状況を確認した。

（図1）（写真1）

- ・現地確認時には作業は行われていなかったが、作業用構台上にボーリングマシン等、薬液注入工事に使用される機材が設置されていた。（写真2）
- ・作業用構台の周辺は移送配管等が輻輳していた。（写真3）
- ・台風14号の通過に備え、飛散しやすい資材や掲示物が固定されており、周辺も含めて資機材等が飛散した状況は確認されなかった。（写真4）
- ・東京電力によると、3号機タービン建屋北東部については、現時点で掘削作業が困難であるため、限定的な範囲で実施可能な薬液注入による止水を実施するとのことである。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1)  
3号機タービン建屋北東部概観  
(東側から撮影)



(写真2-1)  
薬液注入工事用機材の設置状況①  
(南東側から撮影)



(写真 2 - 2)  
薬液注入工事用機材の設置状況②  
(北側から撮影)



(写真 3)  
作業用構台周辺の配管等の状況  
(東側から撮影)



(写真 4)  
資材の飛散防止対策の状況  
(北側から撮影)

- 5 プラント関連パラメータ確認  
各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。